

第2章

景観形成の基本的な考え方



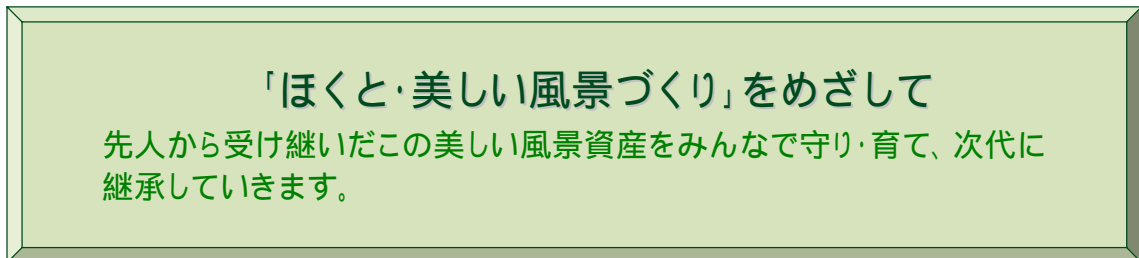
第2章 景観形成の基本的な考え方

1 景観形成の理念と目標

(1) 基本理念

本市の景観形成に向けた基本理念*を次のように設定します。

< 基本理念 >



本市は、八ヶ岳、南アルプス、秩父山地に囲まれ、標高差のあるダイナミックな地形、大小の河川、緩やかに傾斜した山麓や複雑に入り組んだ谷筋の地形、変化に富んだ丘陵地や微高地等が織りなす細やかな地形など、大地そのものがあたかも生きていくような有機的な地形構造（大地の構造）が土台となって、それぞれ地域ごとに特徴ある地域景観を形成しています。

美しい山岳、豊かな森や水辺、山岳を背景とした優れた眺望、暮らしぶりを伝えるのどかな里山や田園・農村風景、情趣に富んだ四季折々の景観、古墳や史跡、歴史的なまちなみ、社寺や古道などの多彩な歴史・文化的な景観、観光地のにぎわいなど、北杜市全体が、さながら、巨大なランドスケープミュージアム（「風景博物館」）となっています。

この美しく個性ある風景は、初めからあったものではなく、自然と共生するための暮らしや様々な営み、自然との関わり方など、先人たちの知恵と暗黙の秩序のもとに、永い年月をかけて受け継がれ、形づくられてきたものです。

しかしながら、近年の都市化や生活の変化によって、こうした知恵と秩序が継承されなくなり、森林の伐採による森の減少、手入れが行き届かない荒れた森林、無秩序な開発や宅地化の進行、耕作放棄地の増加、環境への配慮を欠いた道路施設や標識、乱立する看板や幟旗、空き家の増加や閑散とした商店街など、美しい自然や景観が損なわれ、北杜市らしさが失われつつあります。

これまで私たちは、このふるさとの「風景」を当たり前のもので受け止め、必ずしもその景観に十分配慮してきたとはいえません。しかし、先人たちの長い歴史の営みの中で、受け継がれてきたかけがえのない財産を大切に守り・育て、後世に引き継いでいくことは、今を生きる私達の大きな責務であると考えます。

山梨県観光客動態調査によれば、本市を含む峡北圏域には、年間約700万人の観光客等が訪れています。

本市の豊かな自然環境と美しい景観は、市民の心の拠り所、ふるさとへの愛着を育む貴重な財産であるとともに、人を呼び寄せ、まちを活性化させる源泉（大切な観光資源）でもあります。

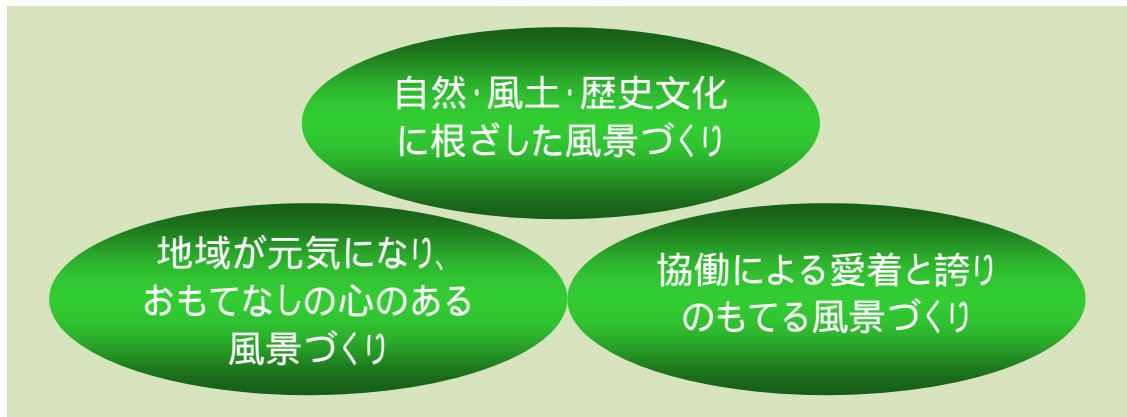
このかけがえのない風景をもう一度見つめ直し、その価値を再認識するとともに、先人から受け継いだこの美しい風景資産をみんなで守り、育て、このまちに住む人、訪れる人、誰もが心とみ、わくわくする感動を覚える、そんな風景づくりを目指します。

注) *基本理念や景観形成の目標については、「景観研究会」で検討・作成された「景観まちづくり市民提言」をもとに設定しています。

(2) 景観形成の目標

景観形成の基本理念を実現するため、次のような景観形成の目標を設定します。

< 景観形成の目標 >



自然・風土・歴史文化に根ざした風景づくり

～ 特色ある大地の構造と地域の自然・風土・歴史文化に根ざした風景づくりを目指します

本市の景観は、山岳と河川、標高差のある地形、緩やかな傾斜の山麓と複雑に入り組んだ谷筋の地形などが織りなす地形構造（大地の構造）が土台となって、地域の自然や風土、歴史文化や人々の暮らしの中で、永い年月をかけて形づくられてきました。

市内からは、美しい山岳景観、森や水辺の自然景観、優れた眺望景観、のどかな里山や田園集落景観、情趣に富んだ四季折々の景観、地域の成り立ちや歴史を伝える様々な景観資源、観光地のにぎわい景観など、北杜市らしい美しく個性的で、味わいのある風景を見ることができます。

しかしながら、近年の都市化や生活の変化によって、このような美しい風景が損なわれ、北杜市らしさが失われつつあります。

先人から受け継いだ風景資産を後世に引き継いでいくため、この美しい風景を守り、育んでいくとともに、地域の自然、風土、歴史文化に根ざし、その特色を最大限に生かした風景づくりを目指します。



・ 山の眺望を背景に集落地と農地の広がる本市を代表する風景

地域が元気になり、おもてなしの心のある風景づくり

～本市の景観の魅力再認識し、それを生かした、地域が元気になる、おもてなしの感じられる風景づくりを目指します

本市を含む峡北圏域には、年間約700万人の観光客等が訪れており、本市においてもこの美しい風景を求めて多くの観光客等が訪れ、多くの人々が移住してきています。

本市の魅力的で個性ある景観は、市民の心の拠り所、ふるさとへの愛着を育む貴重な財産であるとともに、人を呼び寄せ、まちを活性化させる源泉(大切な観光資源)でもあります。

市内には、名所、観光地として知られた場所以外にも、あまり知られていない優れた眺望場所や魅力的で個性的な景観資源が数多く分布しています。

こうした潜在的な資源の掘り起こしを含めて、本市のもつ景観の魅力再認識し、大切に守り、育て、「北杜市風景ブランド」として、一層の魅力の向上を図るとともに、まちづくり(観光や活性化など)への活用を目指します。

また、これらの景観資源を結ぶ観光ルートや散策ルートの充実、主要な道路、本市の玄関口となっている鉄道駅や中央自動車道IC周辺、観光地や市街地のまちなみなどの魅力を高め、多くの市民や観光客等に愛され、北杜市を訪れる誰もがおもてなしを感じられる風景づくりを目指します。



・津金の三代校舎



・長沢の鯉のぼりと花の森公園

協働による愛着と誇りのもてる風景づくり

～市民、観光客等、事業者、行政の協働により、愛着と誇りのもてる風景づくりを目指します

本市の美しい風景を守り・育てていくためには、行政をはじめ、市民や事業者、北杜市を訪れる観光客等、多くの人々の理解と協力が必要であり、みんなが力を合わせて守り、育てていこうとする意識を持つことが大切です。

市内では、景観に配慮した道路や公共施設整備も少しずつ進んでいます。また、アンケート調査にみるように、市民の景観への関心や景観形成に対する参加意向も高く、NPOや市民・ボランティア団体、地域などによる景観形成に関する様々な活動が行われています。

「北杜市景観計画」の策定を契機に、景観への関心を高めていくための各種啓発活動を行っていくとともに、こうした市民の主体的な活動が全市的に広がっていくよう、活動への支援や仕組みの充実を目指します。

また、市民、観光客等、事業者、行政等の協働による景観まちづくりを進めていくため、「景観に関する条例の制定、市民活動への支援策などの制度や仕組みの充実、景観行政を推進していくための組織や体制の強化を目指します。

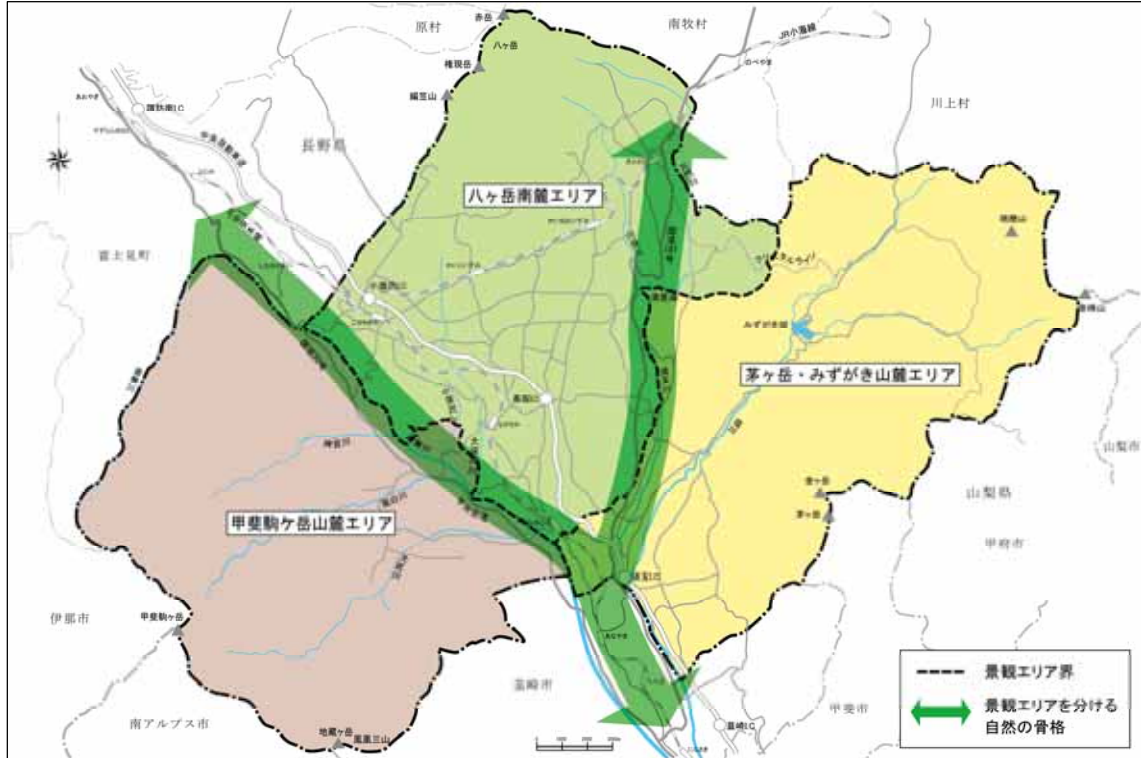


・協働による風景づくりの例 一本景観計画づくりにおける景観研究会

特色ある大地の構造(地形構造)が、景観の土台を形づくっています。

本市は、地勢的に釜無川と須玉川に隔てられた3つ景観エリア(景域)に分けられますが、各景観エリアの地形構造はそれぞれ次に示すような異なった特色をもっており、こうした大地の構造が各地域の景観の土台を形づくっています。

3つの景観エリア

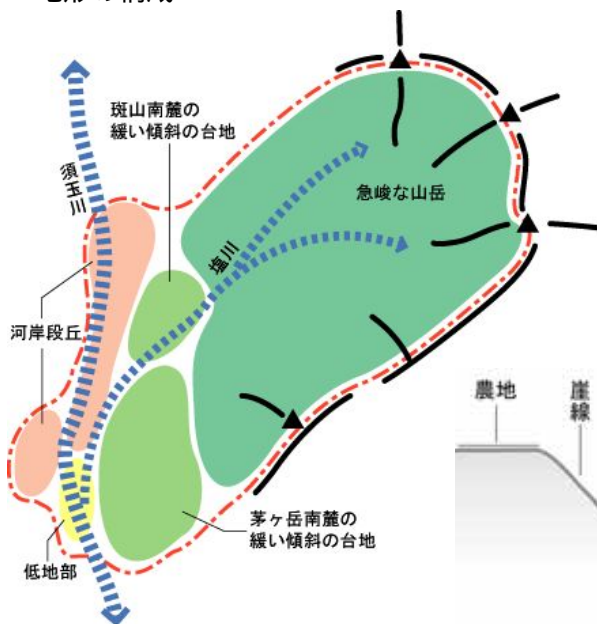


茅ヶ岳・みずがき山麓エリアの地形構造

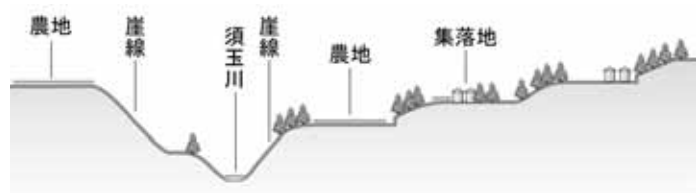
本エリアの地形は、茅ヶ岳や瑞牆山を中心とした急峻な山岳、茅ヶ岳や斑山山麓の緩やかな傾斜の台地、須玉川の河岸段丘と低地部で構成されています。

特に、山麓台地は眺望に優れ、須玉川の崖線と小さな河岸段丘が重なり合った複雑な地形構造は、本エリアの景観を特徴づけています。

地形の構成



須玉川河岸段丘の特徴



八ヶ岳南麓エリアの地形構造

本エリアの地形は、八ヶ岳の急峻な山岳、比較的緩やかな傾斜の高原地域、南麓一帯に広がる緩やかな傾斜の台地、釜無川河岸段丘で構成されています。

特に、高原地域や台地は眺望に優れ、台地では谷戸と森と微高地が南北方向にヒダ状に長く伸びているため、東西方向に移動すると森をくぐり抜けるたびに谷戸と微高地が繰り返し続く地形の変化が特徴的です。また、森（里山）と農地と集落地が様々な形で混在し、本エリアの景観を特色づけています。

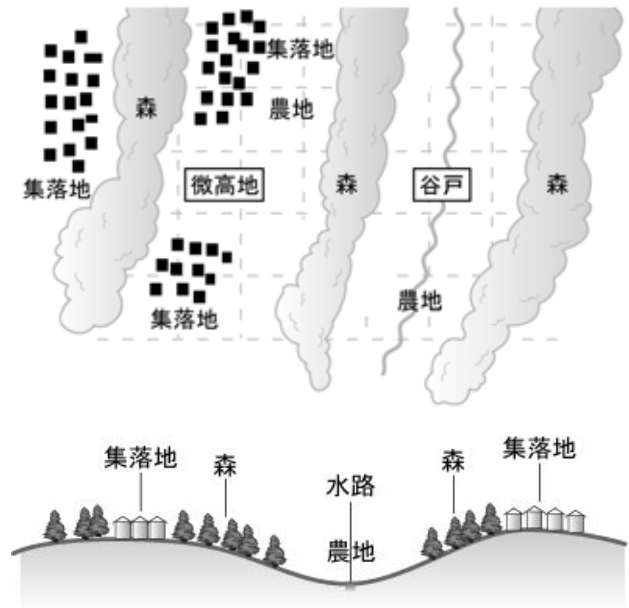
中央自動車道南側は、小河川の開析と釜無川河岸段丘が織りなす起伏に富んだ地形となっており、一帯は森（里山）が広く分布しているなど、台地部とはやや異なる景観を呈しています。



地形の構成



南麓台地の微地形の特徴

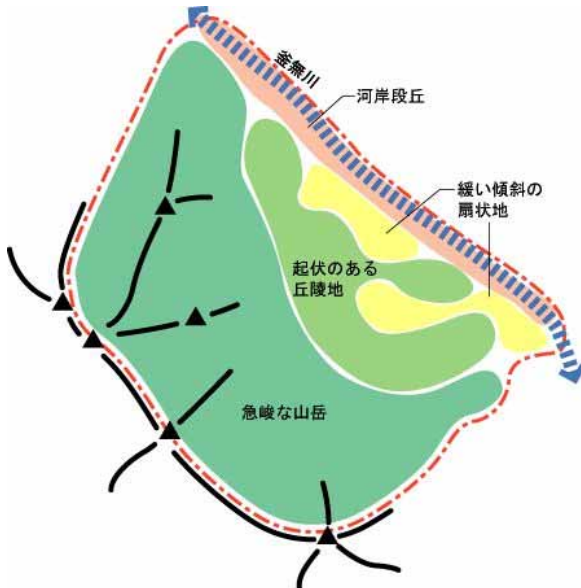


甲斐駒ヶ岳山麓エリアの地形構造

本エリアの地形は、甲斐駒ヶ岳を中心とした急峻な山岳、山麓一帯に広がる丘陵地と扇状地、釜無川周辺の河岸段丘で構成されています。

特に、緩やかな傾斜の扇状地と中山や甲斐駒ヶ岳の前衛に連なる丘陵地は谷筋が入り組んで変化に富んだ地形となっており、こうした地形構造が本エリアの景観を特徴づけています。

地形の構成



丘陵地形の特徴



本市の景観構造は、3つの景観ゾーンと2つの自然景観軸で構成されています。

本市の景観は、前述した大地の構造を土台に、大きく次のような要素が景観の骨格を形づくっており、現況からみた景観の基本的な構造は、下図のように表すことができます。

3つの景観ゾーン

山岳・森林景観ゾーン

概ね、各景観エリアの広域農道から上部の山岳・森林地域で、アカマツ林を主体に多様な林相で構成され、本市のイメージを規定している代表的な景観を形成しています。

田園集落景観ゾーン

山麓に広く形成された里山と田園集落地域で、多様な地形構造の特徴と相まって、里山、屋敷林、農地、集落地が一体となって地域ごとに特色ある景観を形成しています。

まちなみの景観ゾーン

地域の生活の中心となっている既存の市街地等で、それぞれ生い立ちや歴史性を反映して特色ある景観を形成しています。

2つの自然景観軸

骨格的な自然景観軸

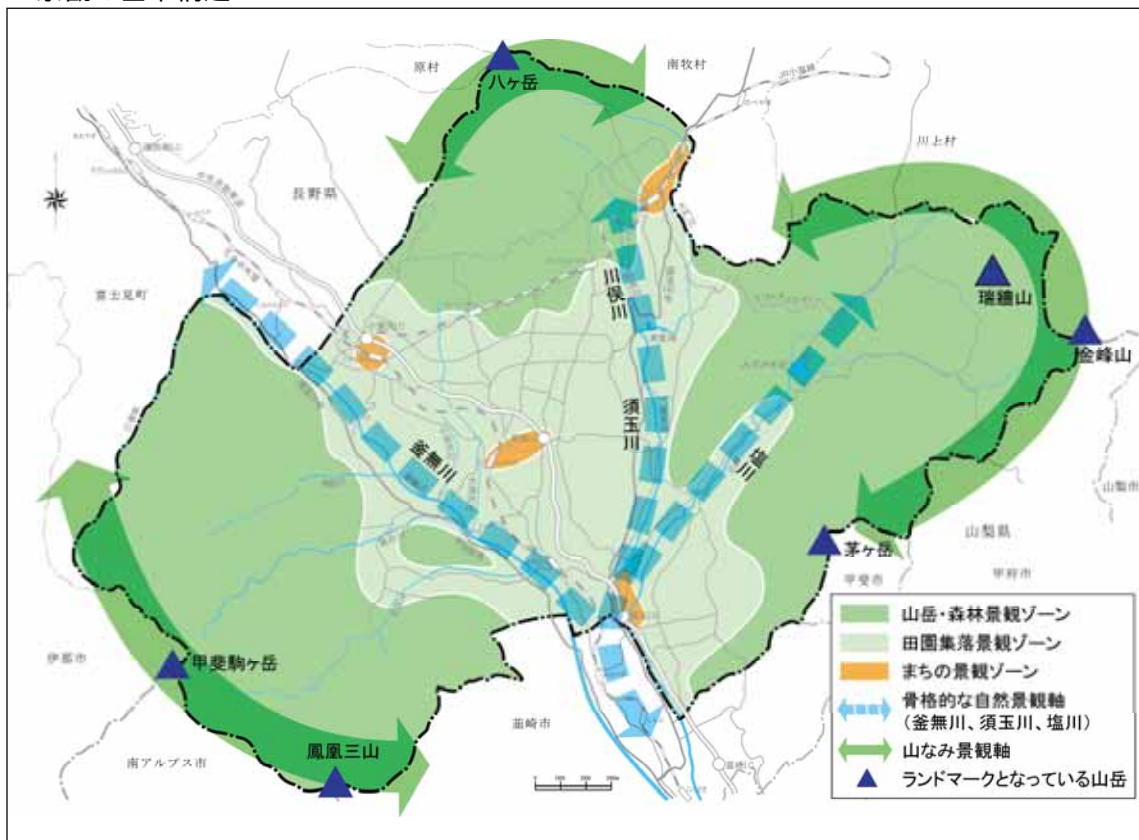
釜無川、須玉川、塩川などの河川とその周辺に展開する河岸段丘や崖線の緑などで、本市の重要な自然の骨格を形成しています。

山なみ景観軸

ランドマークになっている代表的な山岳と市域を囲む稜線の山なみは、もう1つの骨格的な自然景観軸となっています。

- 秩父山地の山なみ（茅ヶ岳～金峰山～瑞牆山～横尾山など）
- 八ヶ岳の山なみ（赤岳～権現岳～編笠山など）
- 南アルプスの山なみ（鳳凰三山～アサヨ峰～甲斐駒ヶ岳～鋸岳など）

景観の基本構造



(2) 将来的な景観構造の設定

1) 本市が目指す景観構造の考え方

本市の雄大で一体感のある景観の基本構造を今後とも保全・継承していくことを基本に、景観拠点の魅力づくりを行います。また、景観拠点や優れた景観資源をつないでいくことにより、本市の骨格となる景観構造の構築を目指します。

大地の構造を保全し、その特色を最大限に生かす

特色ある大地の構造（地形構造）は、本市の景観の大きな土台となっています。このため、各エリアの特色ある地形構造を損なうことのないよう景観上十分配慮し、その特色を生かした景観形成を目指します。

景観エリアや景観ゾーンの特性を生かす

地域の特色ある景観は、大地の構造と人々の永い歴史の営みの中で築きあげられてきました。景観エリアや景観ゾーン固有の景観を大切に守り、これを継承していくとともに、その持ち味を生かした景観形成を目指します。

優れた景観資源を有機的につなげる「風景回廊」を創る

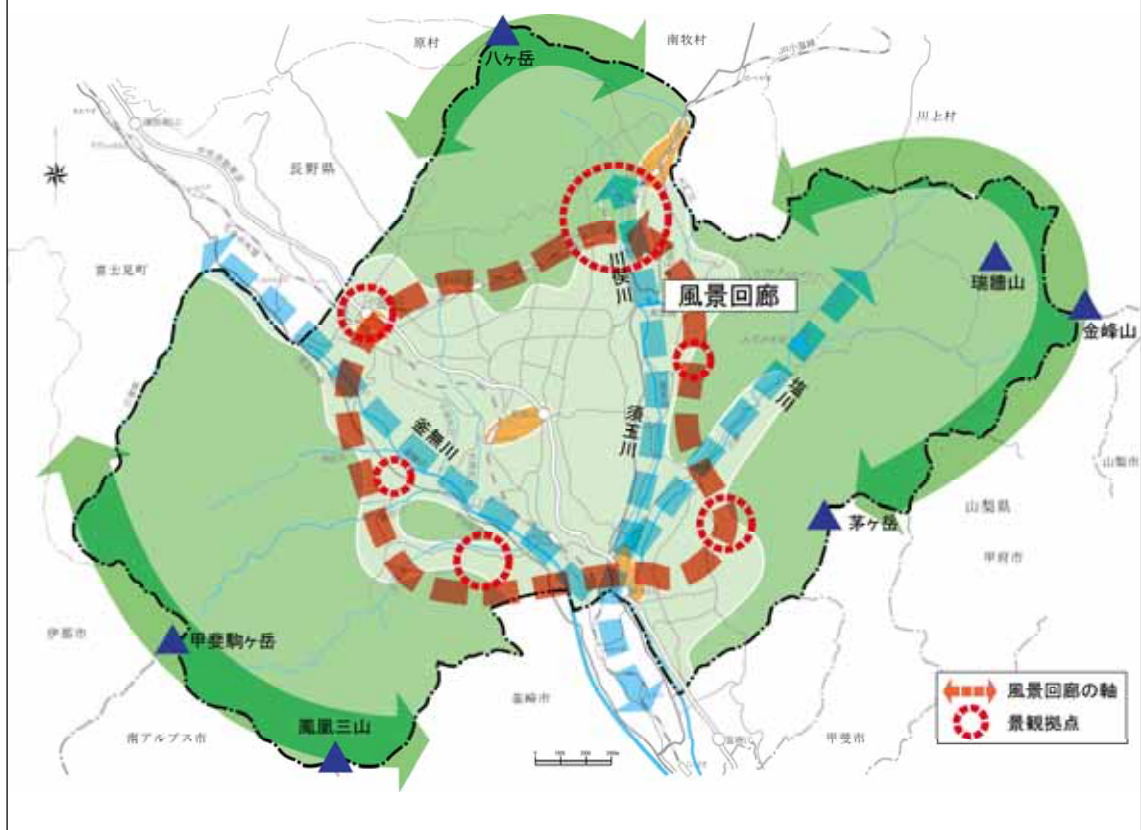
本市の雄大な景観、多様な景観拠点や景観資源を市民、観光客等、多くの人々が楽しめるよう、これらの景観資源を有機的に結び市内を回遊することができる景観ネットワークを、「風景回廊」として形成することを目指します。

多様な景観拠点の魅力育てる

市内の生活拠点、観光地、優れた眺望場所、景観資源などは、主要な景観拠点として景観の保全や景観の向上を目指します。

景観構造設定の考え方

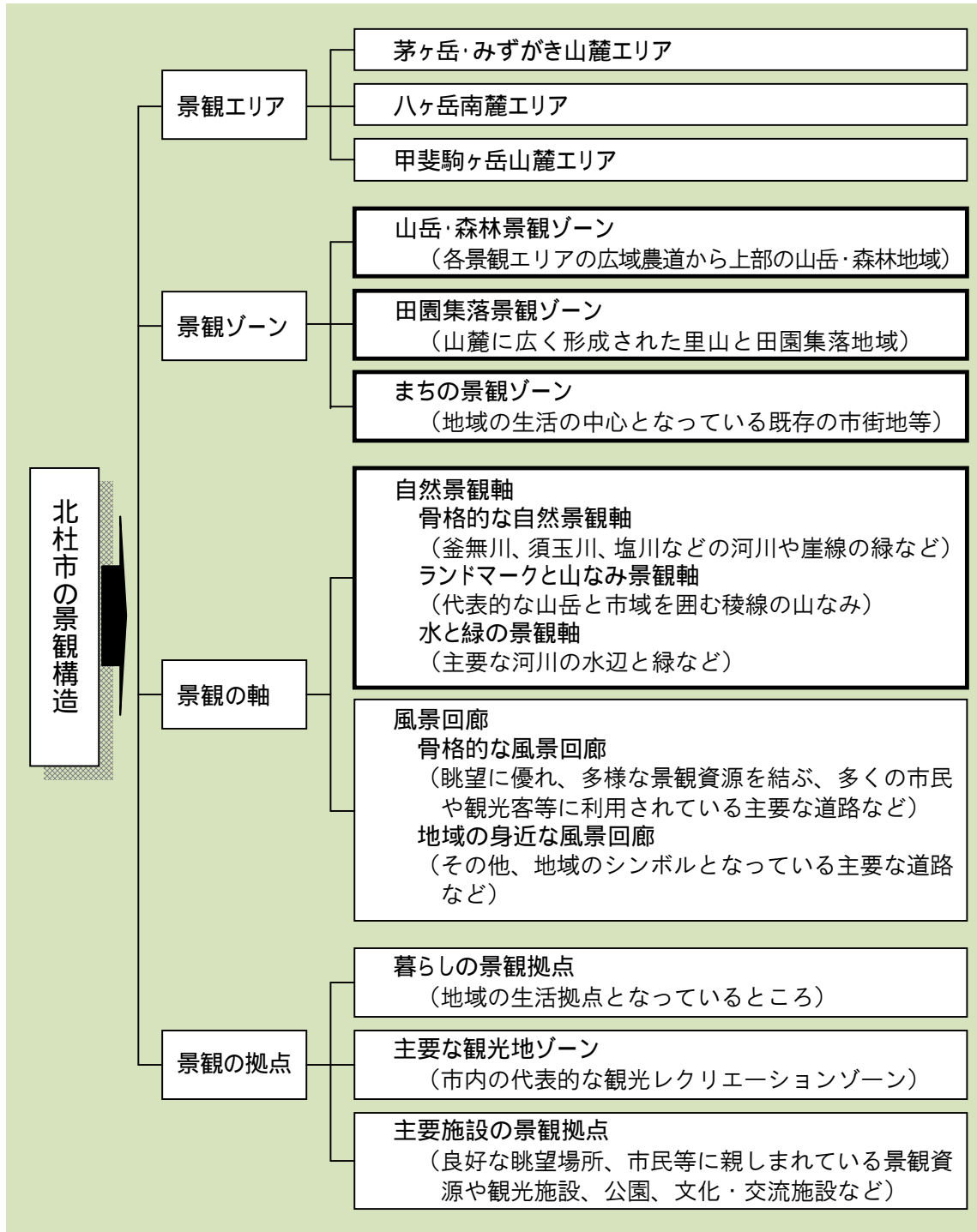
景観の基本構造を保全・継承し、景観拠点の魅力づくりとこれをつなぐ風景回廊づくりで景観構造を構築する。



2) 景観構造の設定

現況からみた景観構造の特徴や本市が目指す景観構造の考え方を踏まえ、本市のめざす景観構造を次のように設定します。

北杜市の景観構造

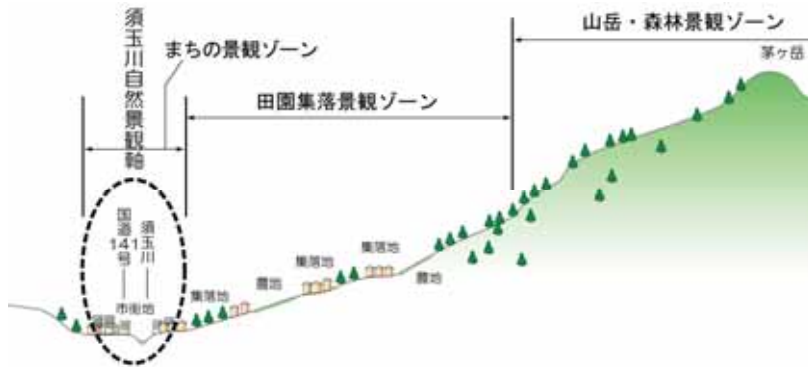


注) * 太い枠は、景観の基本構造（3つの景観ゾーンと自然景観軸）を示しています。

* 「景観ゾーン」については、第3章の3 エリア別景観形成の方針において、更に詳しく景観構造を区分しています。

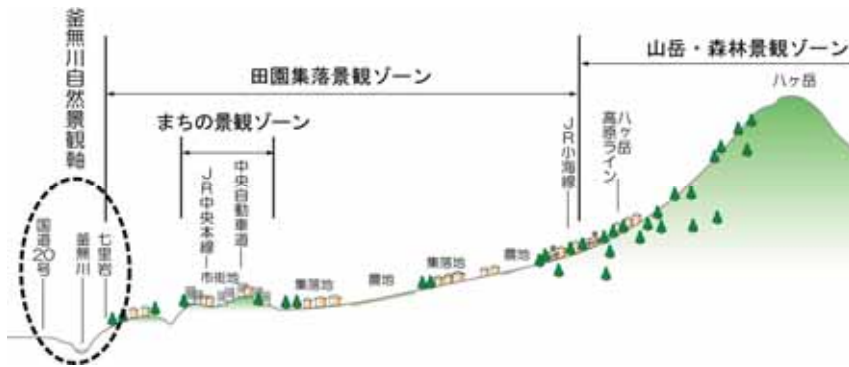
景観エリア別にみた景観構造(断面模式図)

茅ヶ岳・みずがき山麓エリア



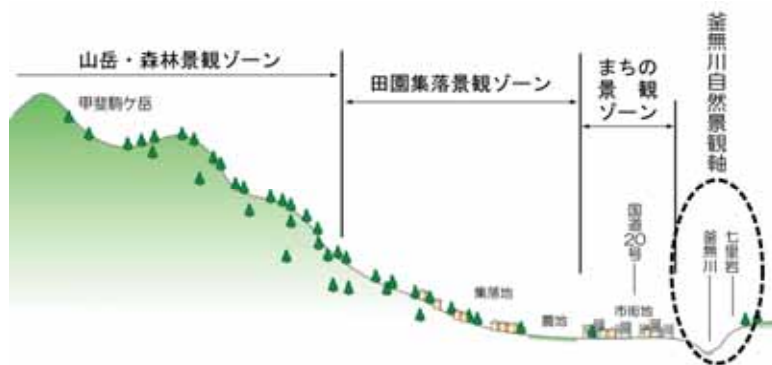
・明野支所上空付近から茅ヶ岳方面を望む

八ヶ岳南麓エリア



・中央自動車道長坂 IC 上空付近から八ヶ岳を望む

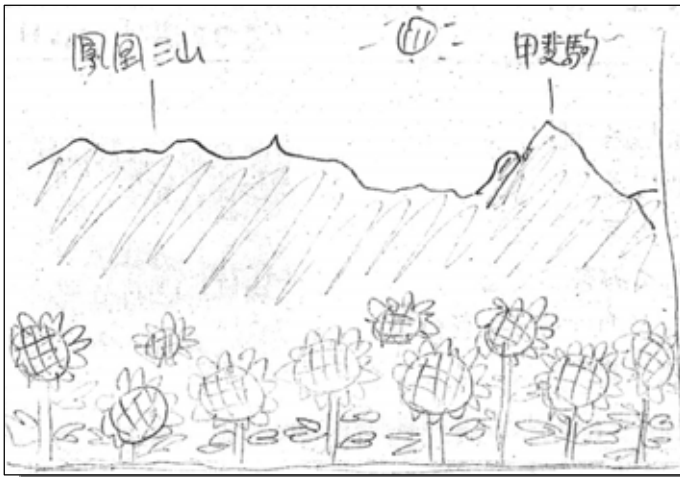
甲斐駒ヶ岳山麓エリア



・小淵沢地区すずらん大橋から白州地区方面を望む

景観構造の概要

景観構造の区分		概 要	
景観エリア	茅ヶ岳・みずがき山麓エリア	・茅ヶ岳・瑞牆山とその山麓地域 (明野地区、須玉地区)	
	八ヶ岳南麓エリア	・八ヶ岳とその南麓地域 (高根地区、長坂地区、大泉地区、小淵沢地区)	
	甲斐駒ヶ岳山麓エリア	・甲斐駒ヶ岳とその山麓地域 (白州地区、武川地区)	
景観ゾーン	山岳・森林景観ゾーン	・八ヶ岳、茅ヶ岳・瑞牆山、甲斐駒ヶ岳周辺の自然公園区域を中心に、各景観エリアの概ね広域農道から上部一帯の山岳・森林景観ゾーン	
	田園集落景観ゾーン	・各景観エリアの概ね広域農道から下部一帯の山麓に形成された里山、農地、大小の集落地が一体となった田園集落景観ゾーン	
	まちの景観ゾーン	・本市の主要な都市機能が集積し、市街地のまちなみを形成しているまちの景観ゾーン (小淵沢駅周辺、長坂駅周辺～長坂 IC 周辺、清里駅周辺、若神子周辺など)	
景観の軸	自然景観軸	骨格的な自然景観軸	・本市の地形構造、景観構造を形成する重要な自然骨格で、河川、七里岩などの崖線、川沿いの樹林帯からなる骨格的な自然景観軸 (釜無川、塩川、須玉川など)
		ランドマークと山なみ景観軸	・ランドマークとなっている代表的な山岳 (八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、茅ヶ岳、瑞牆山など) ・市域を囲む稜線の山なみ (八ヶ岳、南アルプス、秩父山地)
		水と緑の景観軸	・景観エリアの自然の景観軸となっている主要な河川や川沿いの樹林からなる水と緑の景観軸 (尾白川、大武川、川俣川、大深沢川など)
	風景回廊	骨格的な風景回廊	・眺望に優れ、多様な景観資源を有機的に結ぶとともに、多くの市民や観光客等に利用されている主要な道路など <茅ヶ岳・みずがき山エリア> (国道 141 号、茅ヶ岳広域農道、(主) 葦崎増富線、県道清里須玉線など) <八ヶ岳南麓エリア> (主) 北杜富士見線 (八ヶ岳高原ライン)、八ヶ岳広域農道 (レインボーライン)、(主) 北杜八ヶ岳公園線・清里高原道路、県道小荒間長坂停車場線、(主) 長坂高根線、(主) 茅野北杜葦崎線 (七里岩ライン) など <甲斐駒ヶ岳エリア> (国道 20 号、甲斐駒ヶ岳広域農道、県道駒ヶ岳公園線など)
		地域の身近な風景回廊	・その他、地域のシンボルとなっている主要な道路等 (市道名水公園線(べるが通り)、市道下念場朝日ヶ丘線(清里牧場通り)、市道泉ライン線など)
景観の拠点	暮らしの景観拠点	・商店街や公共施設が集積し、地域の生活拠点、地区の顔、玄関口となっている暮らしの景観ゾーン (小淵沢駅、長坂駅、清里駅などの駅周辺、各支所周辺など)	
	主要な観光地ゾーン	・観光レクリエーション施設が集積し、多くの市民、観光客等が訪れる主要な観光レクリエーションゾーン	
	主要施設の景観拠点	・多くの市民や観光客等に利用され、地域の目印、にぎわいの拠点となっている主要な施設など (観光レクリエーション施設、公園、文化・交流施設など)	



●掲載の絵は、平成19年7月に実施した「景観アンケート調査」の自由記入欄（私の好きな北杜市の風景）に描かれた絵の中から抜粋しました。